

STAGE

AMUSEMENT SQUARE

演劇空間「スペースベン」

大切にしたいもの

△文/スペースベン代表・田中 勉▽

青森市の「シューだびよん」に行ってきた。かつて牧良介さんがやっていった小屋である。

原衆さんが再び小屋を始めたという事は聞いていたが、足を運んだのは初めてであった。一月の十六日(木)の事である。

スペースベンでのFANSは、毎週金曜日の夜七時半からの公演であるが、「シューだびよん」では毎週木曜日、夜八時半からの開演となっているようである。実際に企画運営している藤井さんの、ギター一本でのアコースティックライブが八時半から約三十分行われ、その後週変わりの公演が行われる(その他にも不定期の公演も行われている)。

一月十六日(木) 九時開演。作/木村勝一「明日はどっちだ」。あしたのジョーの話を始めながら、梶原一基の半生を描いたものである。八戸市からの観客約五人を含んで、合計約三十人の前で行われた四十分程度のこの芝居は、流石「ストーリー性を重んじる」木村勝一。観客へのサービス精神旺盛の舞台を展開してくれた。初めての「シューだびよん」という空間で、基本的にワンショットバーのような創りの空間を有効に使い、一人芝居を演じ

ていた。いつか、FANSでも再演してほしい作品である。

その一週間後の一月二十三日(木)。私、田中勉も「シューだびよん」で公演を行って参りました。

その日は午後一時半に八戸を出発し、青森市に着いたのは、三時半を過ぎていた。早速荷物を下ろし、食事をとろうと思いい市内を散策したが、ちょうど時間帯が悪かったのか、いわゆる食堂という場所は開いておらず、やむなく喫茶店で食事をとることにした。ミートソースを注文する、と同時に何かかビールも注文してしまっていた。

食事を済ませ小屋入りしたのは、結局四時十五分頃であっただろうか。早速使用する道具を組み立て、リハーサルに入る。二十分程度の芝居で、音響も使わない創りであったので、さほど時間はかからなかったが、何せ初めて上演する場所である。場所の取り込みというか、空間を身体に馴染ませるのにはいつもながら労力がいった。一月二十三日(木) 夜八時半。いつものように、藤井さんのライブが始まった。裏の楽屋、楽屋といっても畳一枚敷かれた狭い場所だ。出番を待つ。この楽屋、確かに狭いが、こんなにも風

情のあるというか、なにか語りかけてくるような趣のある楽屋はなかなかない。牧良介さんの思いが染みついているのか、何か伝わってくるようである。「シューだびよん」と名前を変えて、前とは違った何かをしようとしている今の大切さと同時に、残してほしい大切なものであった。

夜九時。作/L「蟻」。観客は二十人程度であっただろうか。先月号でも紹介したが、この作品は二月二十一日(金)にFANSでも行った。どうしようもない状況に置かれた(もしかしたらどうにでもできる状況に置かれた)男(蟻)がひたすら同じことを繰り返す芝居である。観た方は、賛否両論だったと思う。しかしながら、確かに手応えを感じた。観客が単なる観客ではなく、観る「目」を持った観客がそこには居た。

いろいろな場所で、いろいろなことが行われ、いろいろな考え方があり、いろいろな楽しみ方がある。これからも各地の交流を大切にしていきたいものである。

3月の FANS番組

時間/午後七時三十分

料金/五百円

●7日(金)「タイトル未定」

出演/堺健太郎他

●14日(金)「IMITATION」

作・演出/音喜多由記子
出演/遠瀬純平、沢田英明、小屋敷 暁、音喜多由記子

●21日(金)「タイトル未定」

作・演出/鈴木利典
出演/鈴木利典、高橋一直他

●28日(金)「WANT YOU」

作・演出/柏崎真由美

【FANS番外編】

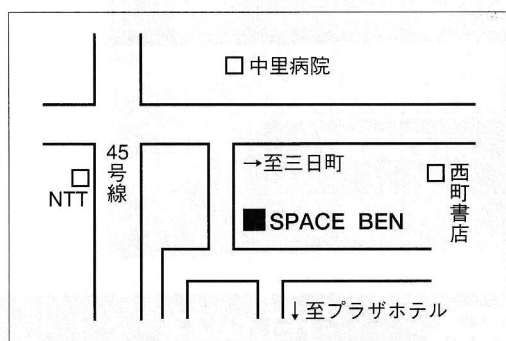
●8日(土)

劇団雪姫「魔女ものがたり」
作/別役美

※公演終了後、作品についてなど出演者との交流会もいたします。お時間のございます方はご参加下さい。

〈問い合わせ〉八戸市柏崎1-11-8

TEL&FAX 43-9876



車でのご来場はご遠慮ください(近くに西町書店駐車場有)